事例

子供食堂で食を通じた「つながり作り」と「居場所作り」
（第３回食育活動表彰 農林水産大臣賞受賞）

気まぐれ八百屋だんだん（東京都）

みんなの居場所「だんだん」

「子供食堂」のメニューの一例

気まぐれ八百屋だんだんは、八百屋を営みながら、子供たちの学習サポートと大人の学び直しの場作りを行っていました。その中で、子供が一人で安心して外食ができ、温かいごはんと具沢山の味噌汁をみんなで食べられる場所を地域で作ろうと、平成24（2012）年から「子供食堂」を始めました。「子供食堂」は毎週木曜日に開店、毎回80食程度を用意し、子供はワンコイン（１円でも、おもちゃの硬貨でも１枚）、大人は500円で食べられます。子供も大人もみんなで一緒に食べることにより、心がなごみ、つながりが生まれ、思いやりや食への感謝の心が育まれます。また、ひとり親家庭や高齢者の孤立を防ぐためのセーフティネット、「居場所」としての機能も併せ持つ場所として、地域の情報収集と発信も行っています。

さらに毎月１回、地方への関心と食文化の伝承を学ぶきっかけを作ろうと、「郷土料理教室」を開催しています。子供たちが料理を作る達成感を味わえ、調理に関する技術を習得できる貴重な場となっています。また、保護者の要望を受け、近隣小学校の「サマースクール」で、子供たちだけで参加できる料理教室を開催しています。

だんだんで育った子供たちの中には、農家になって自分で作った農作物を持ってきてくれたり、大学生や社会人になりボランティアとして、「子供食堂」を手伝ってくれたり、行事を企画してくれたりと、支援される側から支援する側へと成長が見られます。

食に関わる活動を通して、行政、学校、児童館、地域ともつながりができました。これからも、地域の方々の笑顔のためにみんなで力を合わせ、食を通じた地域づくりに取り組んでいきます。

郷土料理教室の様子

みんなで囲む食卓は笑顔がいっぱい